



ミンガラバート

認定 NPO法人
日本・ミャンマー
医療人育成支援協会
〒700-0815
岡山市北区野田屋町2-4-18
TEL: 086-224-0102
FAX: 086-221-2554
URL: http://www.mjcp.or.jp

2024年度総会を開催

事業計画・予算の承認と ミャンマーの現況を報告

去る8月3日、第19回となる日本・ミャンマー医療人育成支援協会の2024年度総会が、岡山市中区の岡山プラザホテルを会場に開かれた。

今回の総会では、昨年度(2023年7月1日より2024年6月30日まで)の事業実績と会計決算を報告。続いて、今年度(2024年7月1日より2025年6月30日まで)の事業計画、予算案が承認された。

総会後には、懇話会が開催されたが、会員同士はもとより、招待したミャンマー留学生なども加わって和やかに交流。ミャンマーの医療の高度化を担う彼らの洋々たる前途に想いを馳せた。



事業は、やや拡大の兆しがあるものの依然として厳しいミャンマーの状況

2021年に起こった国軍クーデターから3年。ミャンマー国内では、依然として政情混乱が続いており、国軍は今年8月、6回目となる非常事態宣言の延長を発表した。今年10月には国勢調査を行い、来年度には総選挙を行うと宣言したが、これらによつて情勢が鎮静化することは困難とみられている。

そのような中、協会の活動

今年度の予算は、一般会計2201万円、特別会計5749万円で、予備費は一般特別会計合わせて約56百万円としている。

チャリティ大集合で、留学生らがミャンマーの現状を語りダンスを披露



アジアの小児白内障の子供たちに光を届けるために活動している「ヒカリカナタ基金(理事長竹内昌彦)を支援するために第23回チャリティ大集合(主催ストリートチャイルド支援実行委員会 代表星嶋淑子)が、2月4日、岡山市北区の西川アイプラザで開かれた。

ストリートチャイルド支援委員は岡山県内の音楽、舞踊、法律、演武などの多彩な分野からのボランティアの集まりで、世界の貧困や

紛争に苦しむ子供たちを支援するため、2002年から毎年チャリティの場を設けている。MJCPも2004年に支援を受けて以来、毎年ミャンマー留学生と共にこの会に参加しており、支援金の配布も受けている。

参加者は病院関係者で約60人。参加者から質問も多く、関心の高さが伺えた。講演後は、招待者である函館市公営企業管理者の協会理事氏家良人さんと元協会の理事の小熊恵二さんと懇話会を持つことができた。

2023年度予算

費目	予算額		説明
	一般会計	特別会計	
繰越金	15,229,705	57,439,777	前年度より繰越
会費・入会金	1,230,000	0	会費100人、賛助会費10人、役員運営協力金13人
寄付金	4,500,000	50,000	永山積善会、ニチニチ製菓、一般寄付金
助成金	1,000,000	0	渋谷育英会
雑収入	50,000	0	預金利息等
合計	22,009,705	57,489,777	

費目	予算額		説明
	一般会計	特別会計	
事業費計	7,500,000	11,000,000	一般会計 ミャンマー医療人の研修・研究支援に関する事業 4,300,000 他機関と協力して支援する事業 1,700,000 家賃地代 750,000 組織活動の公表に関する事業 500,000 その他 1,000 特別会計 田中奨学金5人、10,000,000 あかね基金 1,000,000
人件費	0	0	
会議費	300,000	0	理事会、総会費用
旅費交通費	1,500,000	0	出張旅費
通信運搬費	200,000	0	電話代・インターネット使用料等
消耗品費	30,000	0	事務用品、電話機交換
水道光熱費	170,000	0	電気、ガス、水道代等
印刷費	10,000	0	総会資料印刷代
諸謝費	50,000	0	講演等謝礼
保険料	520,000	0	火災保険等
支払手数料	3,000	0	郵便振替手数料等
業務委託費	450,000	0	業務委託、会計事務委託料
地代家賃	750,000	0	賃貸契約に基づく固定資産税
雑費	100,000	0	
その他の経費計	60,000		
予備費	10,339,705	46,489,777	
合計	22,009,705	57,489,777	

主な事業

小学校の寄贈、新築MAJA会館での田中ドミトリの活用

協会員から寄贈申し込みがある小学校建設については、ミャンマー側と協議して進める。

また、田中ドミトリ階を含むミャンマー元日本留学生協会(MAJA)の新会館建設は当初計画より遅れていたが、ようやく建設が始まった。そこで、日本への留学希望者に学習の便を図るための設備を充実

させていく。なお、昨年の予算で認められていた外科手術補助具の送付は、ミャンマー側からの受取許可が出たので、現在、発送準備中となっている。

あかね基金

介護福祉学科希望者に奨学金

岡田理事長が市立函館病院で講演

岡田茂協会理事長は9月12日、函館市の市立函館病院で「ミャンマーの人たち

朝日医療大学校の看護学科で勉強しています



こんにちは。私はミャンマーから2024年3月14日に来日したメイトウチョーと申します。私は16年から21年まで、ヤンゴン第医科大学の学生でした。20年からコロナウイルス流行で学校は閉鎖されていましたが、21年にミャンマー国軍によるcoup d'etatが起りました。ミャンマーの国民が選んだ政治家の権威を軍の人達が奪ったのです。国民達を銃や爆弾で脅す軍の政治家が嫌だし、彼らがいる限り、国民には最低の生活しかないで、自分はこの様に反対して学校に戻るのをやめました。

学校を辞めて1年間はクリニックでのボランティア活動や医学の勉強をする毎日でした。1年経って、新しい何かを学んで成長しようと思いいい何かを勉強しようになりました。日本語を勉強するようになり、日本は、日本の音楽やドラマの中から、辛い時代をどう乗り越えて、普通の生活を過ごすための言葉が力になったからです。日本語の勉強は1日に2時間、週3日、日本語の先生からインターネット授業を受けました。毎日自分から求めて日本人の考え方を理解できるように注視したので、朝早く起きて漢字を覚えるのが楽しい毎日でした。漢字を書くときに集中力が上がると感じ、辛い思いの多い1日の中、それは貴重な休息時間でした。

1年間の勉強を続けている中で、医学校の日本語を勉強していた友達から、奨学金を受けられれば、日本に留学できることを知りました。友達と一緒に奨学金を受ける組織を探し、MAJJAのウェブサイトで医学生が奨学金をもらえる支援協会があるのを知りました。そこで、協会の岡田茂理事長にメールしたので、ミャンマーから安全に出国できるように、医科大学を完全に辞める許可を出してもらいました。日本に最も早く行く方法は、日本語学校に通うことなので、半年くらいかけて準備をし、その間の23年12月、日本語能力試験でN2に合格することができたのです。

来日できたのは、24年3月。春とはいいながら、震えるほど寒く感じました。宿舎はMJC Pの事務所の上で、ゴミの分別も判らず、料理もできないので、心配ばかりでした。そこで、食事は電子レンジで温められるものをスーパーで買って済ませていました。

私の希望は、日本語学校が終わったら、医療に関係ある看護またはリハビリテーション学校に進みたいというものでした。しかし、岡山に着いた時、岡田理事長から「N2を既に取っているの、日本語学校ではなく、すぐに看護学校に行くように」と勧められたのです。そこで、1週間後に朝日医療大学校の看護学科の面接を受け、合格することができ、4月1日には入学することになりました。

同級生も先生も、私にとって初めての日本人でした。最初は、自分がミヌとしてしまうのが怖かったです。授業が始まったとき、理解できたのは60%だけでしょうか。同僚達と先輩達だけが優しく話しかけてくれたので安心して、2週間は寂しく感じました。また、学校の授業も多く、宿題も多かった

ので、自分にできるかどうか不安でした。そこで、学校が終わった後は、夜まで勉強しました。一方、予定が変わって医療学校へ行ったので、ビザ変更の許可に時間がなかったため、4ヶ月の間はアルバイトができませんでした。勉強もいっばいすることがあり、漢字、言葉の意味を覚えるのに、一度英語に訳さないとよく理解できませんでした。通訳の時間が、かなりかかり、それが一番難しかったことかもしれません。しかし、友達、先生との会話を集中して聴いて、授業理解度も、聴解力も上がってきたようです。

私は、学校の勉強と同時に日本語能力試験N1のため、毎朝5時に起きて勉強しました。7月にはN1の試験を受け、無事に合格。8月に、学校の前期も終わったのですが、その全科目の試験に合格できました。現在は、岡山中央病院でナースパトナーとしてアルバイトもしています。先生達も優しく、説明も全部理解できるようになりました。友達もでき、同僚や先輩達とも仲良くできています。また、ストレス解消は、散歩や自転車での小さな旅です。MJC P主催の交流会では、岡山大学のミャンマーの留学生達にも2回会えました。毎日の生活でなじんで、日本人の友達、先生、仲間達から考え方をいろいろ学んで、自分がどのように生き続けるかの旅は続いています。

認定NPO法人日本ミャンマー医療人育成支援協会のおかげで勉強も続けられ、不安がない生活もできるわけで、毎日、感謝の気持ちで頑張るつもりです。ミャンマーには、自分よりもっと優秀で、熱心に頑張る若者達がたくさんいるので、支援を続けてくださるようお願いいたします。心より、ありがとうございます。

もう流されない……

サイクロン被害の村に待望の小学校

ミャンマー国エーヤワディ管区はインド洋に面し、多くの村落がサイクロンにより度重なる被害を受けてきた。多くの村で子供たちは仮設の建物で授業を受けているが、その中の2つの村で協会会員が鉄筋レンガ造りの小学校を寄付。その贈呈式が、それぞれ大勢の村民が祝う中で行われた。

案内はミャンマー国民健康財団のタンセイン理事長や理事の方々、協会ヤンゴン代表のミョーキン元日本留学生協会理事長ら。日本から岡田茂理事長および寄贈者の富安基晴さんら4人の会員が参加した。場所は、ヤンゴンから車で西へ約5時間のミャウインミャウ郡区。その中心地は、管区最大のコメの集散地として知られている。

そこから、南西へポートで約1.5時間の村に生まれたのが、東広島市の佐々木正親さんとそのグループが寄贈した「アトウィンレット村・なかま小学校」。100人以上の子供たちが通っている。3月31日に贈呈式を行ったが、実は22年の寄付で、昨年末には校舎も完成していたが、コロナ禍で贈呈式が延期されたものの、儀式は長時間にわたったが、岡田理事長が佐々木さんから聞かされていた「なかま(仲間)」の意味を披露した。



「なかま小学校」の贈呈式に出席者で



子供たちが披露してくれた歓迎のダンス「アレス村」



「はるが小学校」の贈呈式で話す富安さん(通訳はミョーキンさん)

「はるが小学校」の贈呈式で話す富安さん(通訳はミョーキンさん)さんとそのグループが寄贈した「アトウィンレット村・なかま小学校」。100人以上の子供たちが通っている。3月31日に贈呈式を行ったが、実は22年の寄付で、昨年末には校舎も完成していたが、コロナ禍で贈呈式が延期されたものの、儀式は長時間にわたったが、岡田理事長が佐々木さんから聞かされていた「なかま(仲間)」の意味を披露した。

次の日は三原市の富安基晴さんの寄付した小学校で、子息の名前を貰って「アレス村・はるが小学校」と名付けた。120人の生徒が通っている。同じくポートで南西に約2時間の村に位置する。富安さんの小学校寄付はエーヤワディ管区ニイナウン村、ピンダヤのタウンポウクウエ村に続いて3校目。これらの場所が選ばれたのは、エーヤワディ管区の元医師局長タンシントウン医師の紹介。シヤン州ピンダヤ地区病院長として、2016年から私たちの3つの小学校寄付に関わってこられた同医師は、住民に惜しまれつつ、ピンダヤを離れ、エーヤワディ管区に栄転になったが、21年の国軍クーデターに反対し、職を解かれた。現在はミャンマー国鉄病院長。今回で、協会が寄贈した学校は合計6校となった。

岡山大学が留学促進事業を受託

岡山大学は、令和6年(2024年)度より5年間、文部科学省「日本留学促進のための海外ネットワーク機能強化事業(東南アジア)」を受託。ASEANからの留学生数、2.7倍(103861人)を目標に事業を進める。この事業はミャンマーを拠点にして、2014年に始まり、ミャンマーからの留学生を4年で3倍に増加させた実績から、18年には対象地域もASEAN10か国に拡大され、引き続き岡山大が担当。北アフリカは九州大学が担当する。

この度、協会からのご要請を受け、編集をお手伝いさせていただきましたこととなりました。医療はもとより、ミャンマーの国情についても疎い部分はありますが、15年もの間、編集に携わってこられた西崎建策氏の業績に対する敬意と感謝の気持ちも込めまして、これを機に理解を深めていきたいと存じます。協会の崇高な活動を伸張させていかれる上で微力ながら一助となれば幸いです。何卒、よろしく願います。(松尾)

編集後記